

YOUTH ユースサービス SERVICE

若者を考える、若者と考える

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL.
21



CSRに見る若者の仕事観
期待される企業の活動

京都の未来をつくる 24 時間。
京都わかもん会議





セルフコントロール

同志社大学大学院博士課程
石山 裕菜



「あなたの夢は？」そう聞かれて、答えられる人は何人いるだろうか。特に、大学生ともなると、徐々に自分の現実というのが見えてくるのか、なかなか回答が難しいようだ。ところが、「なりたくない将来の自分は？」と聞くと、存外沢山の学生が答えをくれる。さて、心理学では、セルフコントロールには、2つの道筋があるといわれており、一方は、理想の自分を設定し、そこに近づいていく方法で、もう一方は、最悪な自分を設定し、そこから逃れていく方法だ。尋ねてみると、大学生は、後者のセルフコントロールをよく使っているようだ。景気が悪く、人口も減少し、終身雇用も危ない。そんな時代に生きている青少年は大変だ。毎日将来の不安でいっぱい、理想の自分なんて考えられない。そこで、「せめて、こうならないよう」頑張っていくしかない。だが、それが本当にダメだろうか？今の自分を嫌な自分にならないようにほんの少しずつ変えていく、そんな消極的な積極性がこれから作っていくかもしれない。

(京都市ユースサービス協会企画委員)

イラスト 厚焼サネ太

14 12 11 10 9 8 7 3

CSRに見る若者の仕事観
〜期待される企業の活動〜

ねっとわーく
特定非営利活動法人

ジャパン・コンテンツポラリリーダーンス・
ネットワーク (JCNDN)

京都市下京青少年活動センターが移転

京都の未来をつくる24時間。〜京都わかもん会議〜

中高生とユースワーク

フィンランドからユースワーカー入浴

TOPICS

盛大に理事長就任パーティー開催！ ほか

ユースかわら版

みんなの居場所「びゅぶSAT」ほか

[表紙の花]

ナスタチウム

ノウゼンハレン科のつる性の草花。原産地はメキシコから南米のあたりで、日本ではキンレンカとも呼ばれる。花色はオレンジ、赤、サーモンピンク、黄色、オレンジなど暖色系が多く、咲き方には一重、八重、更に花びらが重なる万重咲きがある。

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

プラス思考に変える独自の教育「EMS」で

自分を好きになる、 未来が変わる！



iPad® miniを生徒全員に配布

学習意欲の
向上

学力の
定着

※iPadは米Apple Inc.の
登録商標です。

●中3生対象 学校説明会&個別相談会 5/16⑤

●転入・編入 まだ間に合う！4月入学



第一学院高等学校 京都キャンパス

通信制高校
(広域通信・単位制)

平成24年4月「第一高等学院グループ」の「ウィザス高等学校」「ウィザス ナビ高等学校」から校名を変更しました。

まずは
ご相談
ください。

全国55キャンパス
(平成26年12月末時点)

フリーコール 0120-761-080

〒600-8418 京都府京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 烏丸KT第2ビル5F

第一学院高校

検索

www.daiichigakuin.ed.jp

CSRに見る若者の仕事観

〜期待される企業の活動〜

下京青少年活動センター ユースワーカー 岩見晃宏

就職活動をする若者にとって、「働くとは何か」、「やりがいを持って働くためには」といった漠然とした「仕事」に対する不安が渦巻いています。

賃金、福利厚生など仕事を選ぶ基準はたくさんあります。中でもCSRは、企業側が社会貢献とアピール材料、若者側は選択肢としてとらえ、双方の関心が高まっています。CSR活動を取り入れた企業の実態と働きがいを求める若者の間に合致点が生まれているようです。

CSR (Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任) は、企業の経済活動において、国際的にも重要視されています。そもそもCSRの範囲は広く、消費者、従業員、サプライヤー、出資者、国、地域コミュニティなど多様なステークホルダー(利害関係者)に対して、自社企業が存続していけるよう良好な関係を築いていくことが「CSR」とされています。

ここでは、大手企業のサラリーマンからベンチャー企業を立ち上げ、国際貢献を続ける(株)カスターネットと、地域社会と連携して登校の学童を見守るFレンタカーみやこ(株)京都店の実情取材しました。



社会貢献とともに企業の成長を

若者の関心集める(株)カスタネット

「国際貢献されている貴社に就職したい」今年度の社員募集は？」。オフィス家具や消耗品などを販売する(株)カスタネット(京都市南区)が誕生したのは2001(平成13)年。社会貢献室の室長をかねる植木力社長は、大手企業の課長から転身し、立ち上げた会社でしたが、2年間に累積損6,000万円のどん底を経験しました。が、「社会貢献とともに成長したい」と夢を抱き、赤字経営の中、カンボジア支援や京都の障害者スポーツを応援してきました。「カンボジアの子どもたちに文房具を送りたい」と呼び掛けたところ、大きな



倉庫にあふれるほどのエンピツ、消しゴム、ボールペン、ノートが集まり、箱詰めにして郵送し喜ばれました。トナーカートリッジ売り上げの1%を寄付財源に、同国トレア村に小学校も建てました。国内では毎年京都で行われる全国車いす駅伝競走、障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバルなどに協賛金を贈り続けています。カスタネット社会貢献室で「小さな企業のCSR報告書」を制作配布したところ、「こんな職場で仕事をしたい」という若者が同社に大勢問い合わせてきました。「最近は大卒卒の雇用情勢も改善されてきたようですが、一般的には大手企業に集中して中小企業は応募も不足気味です。でも近頃の若い人は、会社のミッションや社会貢献の実行力に、仕事のやりがいや生きがいを求めているようです」と植木社長は当世若者の就労気質に触れながら「社会貢献は企業のトップが率先指示しな



いと本物にはなりません。顧客もわが社のCSRぶりを信頼し商品を買ってくださる。代金の一部が国際貢献につながるなら、その一助にといわれご協力をたまわる。営業面も軌道に乗ってきました」と語っています。



スクールガードと青パトの取り組み

Fレンタカーみやこ(株)京都店

「小学生が元気におはようとあいさつし登校する姿を見ると元気をもらおうし、話をしていても楽しい」。Fレンタカーみやこ(株)は、2年前からスクールガードの取り組みを進めています。

自動車業界では、よく知られるニッチな会社。「地域で仕事をしている以上、地域に恩返しをしたい」と模索中の2012年4月亀岡市で小学生の登校の列に自動車が出っ込む大事故が発生。衝撃が走った。「凶器にもなりえる自動車を扱う私たちだからこそ、右京警察

署、梅津学区自治連合会と協力し、梅津小学校スクールガード梅津見守り隊を始めました」と専務取締役の藤原純一さんは話します。

6名の事業所でありながら、週に3回、始業前の朝8時から30分間、2〜3名ずつ参加し、



100名ほどの児童が通る通学路で地域の有志、PTAなどと一緒に声掛けを行っています。「新入社員も率先して参加し、小学生との会話や地域に親しむことで、人間的に成長してきた」ようです。

半年後には予約の入っていないレンタカーを活かした防犯パトロール「青パト」の取り組みも始めました。スポーツカーも登録しています。その他、京都府と防災協定を結んで被災地に冷凍車を提供し、食糧物を腐らせず被災者に届ける準備をしたり、全店舗災害対応型自動販売機を導入して、防災、災害への意識を高めています。

「新入社員が社外活動を通し、社会人として



大きく成長している。ステークホルダーに対する信用や企業の認知度が向上したり、新たな人脈が出来たりメリットは様々。CSRについて取材に来た学生が、自動車業界に興味を持ち、就職した。学生の人生を変えたと思うと、直接的な活動だけでは測れない影響がある」と藤原専務は語ります。



CSRの広がりに期待

京都市教大 総合社会学部教授 島本晴一郎

現在、日本の企業も大手企業を中心に、CSR担当部署を設け、また「CSR報告書」を作成するなど、精力的に活動を行っています。CSRという言葉そのものは、直接的には1990年代の東西冷戦構造の崩壊を契機に進んだグローバル企業に対する世界的な社会的責任キャンペーンがきっかけとなって広がってきました。その後、内外を問わず、さまざまな企業不祥事がそのブームに火をつけたことも一因としてあります。そして、その一環として、企業はその活動を利益、環境、社会の3つの観点から捉え、これを公明正大に社会に伝えなければならぬという考え方が次第に定着してきました。日本の企業もその動きを受けて、当初は「環境に対する取り組み」などについての報告書を作成していましたが、それらの報告書のかんりの部分が2000年に入り「CSR報告書」へと、その内容を拡充してきています。

ところで、CSRの考え方の中でも、より戦略的に経営活動を進めていくための考え方として、「ビヨンド・ステークホルダー」という考え方が注目されています。企業経営を取り巻く利害関係者との「今」ある関係を超えて、「将来的」な関係を見越して、経営そのものが持続可能になるようにCSR経営を行うという考え方は、例えば、将来的に消費者になる子どもたちに対する教育・啓発的活動、企業経営の持続可能性を高めるための自然保護活動、被災地への寄付、コミュニティの課題への対応といった取り組みは、取り巻く社会・自然環境に貢献することで、自社のブランド価値を高めるのみならず、自社と社会双方の長期的な利益に繋がるといっわけです。

日本では、企業の倫理性、商道德という考え方は古くから息づいていました。1600年代には琵琶湖の周辺は、東海道、中山道、北国街道、伊勢街道などの結節点にあり、京都に近いという恵まれた立地の各地に市が立ち、農業従事者が農閑期に商人となりました。それらの地域はやがて地の利を活かして全国に向

けての行商人発祥の地となり、五個荘商人、八幡商人、日野商人、高島商人など、俗に「近江商人」と呼ばれる商人グループが生まれました。彼らは天秤を担いで行脚商売に出かけ、遠隔地に地元の商品を運び、また行く先々での商品を扱う「行商人」になりました。異なる地域での商売はその地域の人々の信頼がないと成りません。その中で、商い本来の在り方、倫理観というものが出てきました。近江商人の経営哲学として広く知られている三方良し（「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」）などはそのうちのひとつですが、その多くは商家の家訓として残っています。現在でも、百貨店の高島屋や大手商社の伊藤忠商事、丸紅やその他多くの、近江商人の系譜を引く会社の企業理念には、これらの経営哲学が活かされています。この「商人道徳」こそ、CSRそのものと言っても良く、その理念は企業倫理・道徳として、経営陣が本来持つべきものとして多くの企業に受け継がれてきています。

このようなことから、昨今ではCSR報告書などを通して、企業のミッションや社内の環境、業務の実態と社会、環境との関わり合いを見る若者が増えてきているようです。

■ プロフィール

島本 晴一郎（しまもとせいいちろう）
1974年日本輸出銀行（現国際協力銀行）入行。
2004年から現職。
京都CSR研究会代表幹事



おひろちゃん

特定非営利活動法人

ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN)

●ミッション

子どもから老人まで日常生活の中でダンスに触れる機会を創り、ダンスの持っている力を社会の中で活かすための環境を創ること。

●代表者

理事長 佐東範一

●設立年月日

2001年4月



●わたしたちの活動

JCDNは、コンテンポラリーダンスを普及・発展させるための全国的なネットワーク組織です。「コンテンポラリーダンスって何ですか?」とよく聞かれるのですが、バレエやジャズダンス等のように、基本の「型」があるのでなく、その「型」から一人一人のアーティストが、新しく生み出そうとする身体表現です。

そつした型が決まっているという特性を活かし、誰でもがアプローチできるものとして、福祉や教育、健康な

ど様々な分野で、ダンスの持っている力(創造力・表現力・コミュニケーション力など)を社会の中で活かす活動(コミュニティダンス)が、全国的に広がっています。

中でも現在、教育関連の事業で力を入れているのが、学校の先生のための舞踊教育教材の普及です。ダンスの持つ力を子どもたちから引き出すためのファシリテート方法を、3組のタイプの違うアーティストに協力していただいて、昨春秋に初回版を発行しました。

コンテンポラリーダンスのアーティストが学校で行う授業は、「決まった振付」を子どもたちに教えるのではなく、自由な発想で、一人一人がオリジナルなダンスを創っていくものです。子どもたち自らが創造力を膨らませて動きを考え、どのように表現するかを工夫し、人と一緒に何かを創っていく過程でコミュニケーション力を育む——そんな授業である事が特徴です。ダンスというよりも子ども



こちかぜキッズダンス @ 三条学童保育所
(撮影: 草本利枝)

たちの中に眠っている能力を刺激するといった方があっているのかもしれない。昔は、外遊びの中で育まれてきた能力だと思いますが、外で友達と遊ぶ機会が減り、コンピューターゲームが遊び相手になっている現代社会において、「こつした「自分で考える力」や「他者を理解する力」を引き出し育む機会が、家庭や学校にも大変必要になっていっていると思います。

この教材が、子どもたちのころと身体を豊かにし、子どもたち同士が新しい関係性を築いていけるような創造的な授業を行う一助になればと思います。

ダンスの授業の方法がいつぱい詰まった教材(参考書)「ダンスリーフ」は、サイト(<http://www.jcdn.org/danceleaf/>)から一部映像が見られます。また、学校の先生を対象に期間・部数限定で全編を無料配布しています。興味のある方は是非ご連絡ください。

住所 〒600-8092 京都市下京区神明町241 オパス四条503

TEL 075-361-4685 FAX 075-361-6225 e-mail jcdnjp@ybb.ne.jp

HP www.jcdn.org

京都市下京青少年活動センターが移転 4/20オープン

新しい「京都市下京青少年活動センター」が、JR京都駅の東側に移転、この4月20日から利用が始まります。地図を見ていただくと塩小路通河原町東入ル下ルにあつて、JR京都駅から徒歩10分以内の場所、近鉄電車や京都市営地下鉄そして市バス、さらに京阪電車の七条駅があり、交通の便がたいへんよくなります。また高速道路の鴨川西・鴨川東インターからは、おおよそ10分で到着します。この好条件を活かした、新しい活動の場として考えていきたいと思えます。さらに、将来は京都市立芸術大学が近くに移転してくる計画もあり、周辺の環境が大きく変化しそうです。

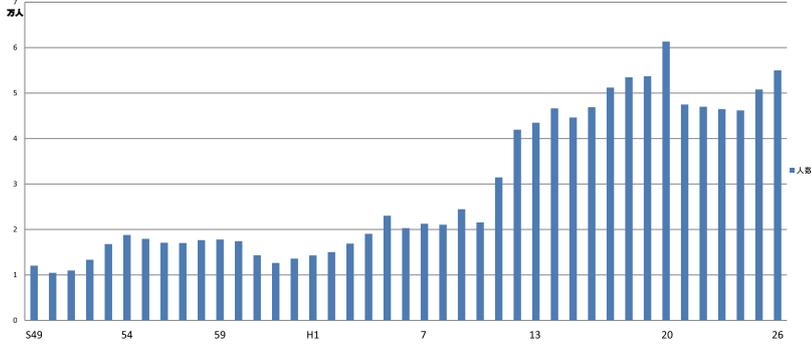
利用者数120万人

ここで旧下京青少年活動センターの歴史を紹介しますと、昭和49年4月、下京青年の家（京都市



下京勤労青少年ホーム）という名称で、下京区西七条北東野町の地に開所しました。建設の際は、地元の商店、企業を中心に2,036万円もの寄付金をいただきました。集団就職などで、京都で生活を始めた勤労青少年の憩いの場として、勤務が終わったあとや、休日の活動を中心として利用されました。中央市場駐車場での「盆

(表1)京都市下京青少年活動センター利用者数推移表



踊り大会」や、館内で開催された「フオーク・コンサート」、そして休日のハイキングなどのレクリエーションや、書道や茶道、英会話・パソコン教室などの学習活動が実施されました。

やがてこの勤労青少年向けの対策事業は、転機を迎えます。平成13年4月、「青年の家」または「勤労青少年ホーム」の名称を、「青少年活動センター」に変更しました。そして、利用対象を「15歳以上31歳未満」から、「13歳（中学生）以上31歳未満」に変更しました。青少年活動センターの始まりです。

利用者数の推移（表1参照）を見ると、この変更は一定の成果を上げてきたことが分かります。昭和49年から平成26年まで40年間の利用者数は約120万人で、平成13年度あたりから利用者数が大きく伸びています。現在は、中学生や高校生の利用も多く、スポーツルームを分け合って使用する「フリータイム」など、学校帰りの利用も増えました。また、高校生から大学生を中心としたボランティア活動は一年を通して行われるようになりました。小学生を対象に野外活動を計画するグループや、商店街の活性化や地域にかかわっ



〒600-8202
京都市下京区川端町13
電話 075-353-7750
FAX 075-353-7740



ていくグループなどです。また、各ボランティアグループのつながりが、楽しい雰囲気を作りだし、他の青少年グループが自然と協力する場面もあります。これからも青少年を中心に、新しい施設で地域の活動グループや、人のつながりを大切に活動を続けていきたいと思えます。

京都の未来をつくる 24 時間。

京都わかもん会議

KYOTO WAKAMON CONFERENCE

京都わかもん会議実行委員会 横山 愛



夕刻、門川京都市長が会場を訪れ、若者の可能性などの話をしたあと、若者たちと熱心に意見交換をしました

「京都わかもん会議」と聴いてあなたは何を連想するだろうか。私は最初、京都で若者が集まり、堅苦しい雰囲気での机上の議論をする場だと考えていた。その考えは即、くつがえされた。

2015年2月7日、北海道から沖縄まで全国各地から「わかもん」40名が宇多野ユースホステルに集まった。

緊張した面持ちで続々とやってくるわかもんたち。何が始まるだろうと期待感を寄せているわかもんや、知り合いがいない場で不安なわかもん。多種多様なわかもんが一堂に会した。この時、白熱した議論が深夜まで続くことになると誰が予想しただろうか。

そして正午、京都わかもん会議の舞台が開かれ

た。自己紹介などのワークを経るごとに、参加者たちの顔が緩んでいく。ゲストの講演では、教育、まちなどのテーマで議論が繰り広げられた。ゲストの話の聴きながら、わかもんたちは前のめりになる。

議論したい想いが募っていたのだ。この後の休憩で参加者同士が徐々に議論を始めていた。

夜になると外の暗さには似合わない、明るい顔をしたわかもんたちがいた。自分が取り組んでいること、これからの生き方などに対する問いを語り始めた。深夜まで議論は続いた。わかもんたちが問いの答えを探す旅に出ている時間だった。

その旅から京都に立ち戻り、京都でできること、京都でやりたいことを宣言しあつた。

京都から出る、京都から連れ去りたい、京都と向き合いたいなど個性あふれる宣言ばかりだった。

今回、実行委員長 滋野正道氏が、口酸っぱく伝えていた言葉がある。

「ひとり一人が描く未来を実現するために、具体的な一歩を踏み出す場にした」だ。真剣にわかもんへ伝えようとする姿を見ると、彼自身が葛藤しているテーマだと感じた。この言葉を聴いて、わかもんたちは具体的な一歩を踏み出すヒントを持ち帰ろうとしていた。

余談になるが、実行委員のメンバーも「京都」にゆかりのある「わかもん」である。社会の課題と向き合う私たちも、何か答えを求めながら、運営していたかのように思う。日々の活動に意味があるのか。その意味とは何か。

いま、「過疎高齢」「限界集落」「人口流出」などの課題が社会を取り巻いている。

ここ京都でも同じだ。「わかもんたちだけで動いても社会は変わらないのではないか」という声があるかもしれない。でも、私たちはわかもんが立ち上げれば、社会が変わると信じている。なぜなら、社会を変えたいと思ひ、課題解決に取り組む仲間がいるからだ。

この場を機に、わかもんたちは新たな一歩を踏み出すことになる。その歩みが社会を変える一歩となるだろう。

そして、また京都で集いたい。これが次回の京都わかもん会議と参加者との約束なのかもしれない。この約束を果たすため、今も「わかもんたち」は社会と向き合い続けている。



中高生と

ユースワーク

ユースワークとは、子どもが市民社会の一員として成長していく過程を手助けする営みです。ここでは、ユースワークがその目的のためにどんな風に取り組まれるのか、説明していききたいと思います。

京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長 水野篤夫

日本において、小学生から中学生、高校生の大多数は学校に「所属して」います。正規のカリキュラムの時間だけでなく、部活動などの時間も含めた「時間」という意味でも、何か社会と関わる際の身分保障・身分証明という面でも。だから、学校外の若者への教育や福祉的な関わりが果たす領域は、欧米などと比べてもはるかに狭くなっているし、「軽く」見られているともいえます。しかし、これは「正常な」社会構成なのか？ 疑問があります。事実、戦後ずっと教育問題の多くが、学校から発する問題だったし、それは近年ますます強くなっています。不登校という

こと一つとっても、10万人の子ども・若者が学校に行かない・行けないことが常態化しているし、「いじめ」問題もそもそも「学校内問題」といつて過言では無いでしょう。そして、さまざまな処方箋がその時々に出されてもこれらの課題が減少していないことを見れば、原因は大本の社会構成の問題、つまり学校の肥大化にあるのではないかと、そう私たちは考えています。ユースワークは、こうした10代の若者を考えると、学校外での活動を通して、さまざまな経験の機会を提供することで、その成長につなげていくことを目指すものといえます。例えば、私たちの財団

の事業で、高校生が取材・編集してフリーペーパーを作る事業があるのですが、そこには、多様な高校生が集まり、いっしょに作業をします。ある時、参加していた高校生がこんなことを言い出しました。「私、学校で『変』って言われているの……」。一部のメンバーは笑い話に流してしまおうとしましたが、それをちゃんと受けとめて記事にしてみよう、というメンバーもいて、「高校生にとって普通って何だろう」、「変」って何だろう」ということが特集記事になっていきました。また、この活動ではとても積極的にリーダーシップを取っているメンバーに、



「学校でもそんなに元気なの？」と何気なく聞いたら、その高校生は「学校では目立たないようになっている（だからこの活動にきている）」と言いました。彼女らは学校とは別の顔を出せる場として、この活動を選んでいたので感じさせるやりとりでした。

私たちが運営に携わる青少年活動センターには、毎日多くの中学生がやってきます。スポーツ室で卓球をしたり、ロビーで漫画を読んだり、自習をしたりとそれぞれ

の放課後を楽しんでいます。しかし、中には「要らんこと」をやつてセンターのユースワーカーに叱られる中学生もいます。突っ張つて、暴言を吐いたり、叱られてもやめなかつたりと、手の掛かる彼女らですが、そんな若者に限って家族に問題を抱えていたり、学校でうまくやれていなかったり、という背景を見ることがあります。「実はうち、両親離婚したんや」等とワーカーに語ってきたりするのは、粘り強くこうした若者に

付き合ひ続けて初めて見える顔がそこにあります。ここでも、ユースワークというのは、学校とは（家庭とも）異なる安心して居ることのできる場、つまり「居場所」を若者が作っていく手助けをしているといえます。ユースワークについて、ここでは中高生年代との関わりに絞って説明しました。手前味噌との批判を顧みずにいえば、だから「学校外」教育の領域を広げることと、学校外に子どもや若者が所属を持

つようにして、学校とは異なる論理・倫理で大人が関わるチャンネルを増やすことが、とても有効な（しかも唯一の……）手立てになるのではないかと。そして、そのための重要な方法論が、ユースワーク（ユースサービス）なのではないかと思うのです。では、学校を離れた後の若者、20代以降の若者との関わりはどのようなものか。それについては、また別の機会に述べることだと思います。

フィンランドからユースワーカー入洛

「欧州のユースワーカーと学び合う京都セミナー」が昨年12月12日から3日間、京都市山科、中京両青少年活動センターで開かれ、若者支援を巡って有意義に情報交換しました。フィンランドの首都ヘルシンキ青年局から、マリヤ・ホヴィさん、ピルユ・マッテイラさんの女性ユースワーカー2人が入洛し、初日は、山科青少年活動センターの施設見学や利用中の若者と話し合う場面もありました。13、14日は中京の同センターで平塚真樹法政大学教授ら研究者や京都のユースワーカーら約50人が参加してフィンランドと日本のユースワークについて意見交換しました。フィンランドでは、青年法が法律として制定され、国の大きな施策になっています。また、多くの事業が若者の声を生かして企画するのが特徴です。おたがいに両国の事業評価の違いを共有したり、フィンランドの遊びを取り入れたユースワークや事業紹介、センターに来ない若者へのアプローチを学校と連携して行っていることなども話し合い、専門性を高め合いました。



「欧州のユースワーカーと学び合う京都セミナー」が昨年12月12日から3日間、京都市山科、中京両青少年活動センターで開かれ、若者支援を巡って有意義に情報交換しました。フィンランドの首都ヘルシンキ青年局から、マリヤ・ホヴィさん、ピルユ・マッテイラさんの女性ユースワーカー2人が入洛し、初日は、山科青少年活動センターの施設見学や利用中の若者と話し合う場面もありました。13、14日は中京の同センターで平塚真樹法政大学教授ら研究者や京都のユースワーカーら約50人が参加してフィンランドと日本のユースワークについて意見交換しました。フィンランドでは、青年法が法律として制定され、国の大きな施策になっています。また、多くの事業が若者の声を生かして企画するのが特徴です。おたがいに両国の事業評価の違いを共有したり、フィンランドの遊びを取り入れたユースワークや事業紹介、センターに来ない若者へのアプローチを学校と連携して行っていることなども話し合い、専門性を高め合いました。



盛大に理事長就任パーティー開催!

第4代公益財団法人京都市ユースサービス協会理事長に就任した安保千秋さんの就任披露パーティーが昨年12月17日、京都ロイヤルホテルで行われました。当日は門川大作京都市長や藤田裕之副市長、荒巻禎一前京都府知事をはじめ、日ごろ協会を支えてくださっている関係者のみなさま方約150人が出席されました。

安保千秋理事長は、法律実務家として子どもや若者の人権擁護や成長発達への支援活動などに取り組むようになったいきさつ、社会環境への問題意識、その中で出会った「ユースサービス」への期待や重要性を話されました。



また、理事長就任依頼時に「話しやすいから」といわれ「納得した」裏話も明かされました。対人援助の取り組みをしていくからこそ、役員同士、職員同士、また関係のみなさまと互いに話しやすい関係づくりがまず重要と説きました。

安保理事長の挨拶に続いて、当協会設立以来、役員を歴任され、今回理事長から顧問に就かれた遠藤保子立命館大学教授と柴野昌山前顧問からの挨拶、そして協会事業や運営につながるの深い方々からコメントやパフォーマンスの披露がありました。



全国若者・ひきこもり協同実践交流会に参加しました

子ども・若者総合相談窓口 相談員 富田 祐子

第10回全国若者・ひきこもり協同実践交流会が今年2月21～22日に那覇市の沖縄県男女共同参画センター・ているで開催されました。シンポジウムやテーマ別実践交流会、支援者養成講座、特別交流会があり、県内外から約500人が参加しました。

シンポジウムやテーマ別実践交流会では現場における個別支援や地域連携について発表され、若者にとって成功体験やグループ体験をできる場が必要だと指摘がありました。一方、孤立した家族が支援の入り口に繋がりにくく、物事が起こる前に予防すること、支援の必要性が感じられる若者をキャッチするこ



とが重要だと発表が印象的でした。他にも地域に居場所や交流の場が少ないこと、地域社会と一体化の難しさ等が語られました。若者支援政策の現状と課題については、若者支援政策理念と現場の実践のズレや支援者の安定的な雇用など、支援現場の厳しい現状が報告されました。

発表された機関、団体は地域の特性を理解し、他機関や地域と上手に連携しながら取り組まれていました。青少年活動センター、京都若者サポートステーション、子ども・若者支援室を運営する京都市ユースサービス協会としてどのような取組が必要で何が課題なのか、改めて考える機会となりました。

事業指定寄付のお願い

ヤフーのリンクス・フォー・グッドという3行キャッチコピーをご存知ですか。クリックすると京都市ユースサービス協会のトップニュース面に飛んで、事業指定寄付コーナーを案内します。公益財団法人になり、ユースサービス協会に寄付しやすく控除も受けられる仕組みになりました。

協会では、さまざまな事業を展開していますが、資金に余裕がありません。4年目を迎える中間就労「農業体験・夏野菜に挑戦しよう」は今年も5月から9月まで無業状態の若者を対象に実施します。参加者にせめて交通費を補助したく、皆様に寄付金をお願いすることにしました。

本格就労へのきっかけとして、若者たちの自立を支援する事業指定寄付に熱い志をたまわりますようお願いいたします。一口1,000円以上。寄付の仕方、寄付控除等の項目は、協会ホームページをどうぞ。



ご寄付いただきました

【平成26年11月～27年2月まで】

- 税理士法人 京都合同会計 様
 - 柴野 昌山 様
 - 村松 陽子 様
 - 吉田 雅子 様
 - 竹内 大貴 様
 - 南 富夫 様
 - 匿名希望 1名様
- ありがとうございました。

長尾谷高等学校 京都校

自分らしく学べる 通信制 単位の 学校が京都にある!

大学受験に専念したい! スポーツや芸術を楽しみたい! 自分のペースで学びたい! やっぱり高校卒業資格!

京都校独自の学び方を開講 (希望者)

- 1 年次生対象
 - ①おまかせ履修クラス
全日制のような感覚で週2日(水・金)登校して学習
 - ②安心サポートクラス
登校日を少なくして自分なりのペースで学習
- 2 年次生対象
 - ③安心サポート講座
 - ④アドバンス講座
効率の良い学習で志望校合格を目指す入試対策講座
- 3 年次生対象
 - NEW!今年度よりスタート!
特進講座(入試対策講座)
有名進学塾との提携により志望校合格を全面的にバックアップ



「まずは聞くことから」進路指導

随時、転・編入学できます
学校見学随時実施中



京都校 お問い合わせ 075-241-0733

京都市中京区西洞院通四条上ル476-1-3
●阪急京都線 烏丸駅より西へ約450m
●地下鉄烏丸線 四条駅より西へ約450m E-mail info@nagaodani.jp

校方本校 梅田校 なんば校 奈良校
長尾谷 検索 私達は青少年の育成を応援しています

ユースから版

事業案内

みんなの居場所「ごぶSAT」

北青少年活動センターでは、毎月第2・4土曜日に、「～みんなの居場所～ごぶSAT」を行っています。過去に辛い経験をした若者や、今も少ししんどい若者が集まって、みんなで料理をつくったり、卓球やゲームをしながら交流しています。人と関わるのが苦手だなという方、誰かと関わりたいな、友だちを増やしたいなという方、ぜひ一度参加してみてくださいませんか。

いろんなものづくりができます！ シェアアトリエ

東山青少年活動センターの「ヒガシヤマDEものづくり」では、シェアアトリエとして創造工作室を週に2～3回、無料開放しています。陶芸、木工、染色などのものづくりができ、電動ろくろや、電動ノコギリ、ボール盤、ノミ、染色用のバットや大きな鍋、コンロなどの道具を貸し出しています（珍しいサンドブラストの機械も本事業限定1回200円で使ってください）。ガラスのコップ等に名前や模様を彫り、オリジナル食器もつくれます。月1回合同で陶芸を焼成する日も設けています。東山でアトリエ活動を始めてみませんか？

事業レポート

職業ふれあい事業「演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク」

京都若者サポートステーションでは、昨年10月から2月にかけて東山青少年活動センターとの連携事業を開催しました。ワンデイセミナーを2回、ワークショップシリーズを2回と昨年度から回数を増やしました。俳優の二口大学さんと、広田ゆうみさんをナビゲーターに、体や顔のストレッチやタオルパレーを行い、発声方法、インプロ（即興表現）の手法を用いて伝えること、伝えることを確認しながら、伝える苦しみや伝わる喜びへと変わるきっかけとなりました。



新春恒例！「新年もちつき」

南青少年活動センターでは、1月10日（土）に「新年もちつき」を開催しました。正月遊びに触れる機会もあり、小さな子ども連れの家族など普段センターを利用されない方の参加もありました。「こういった行事をする機会が少ないので子どもにとっても貴重な経験になった」「お兄さん、お姉さんらに遊んでもらえたり、子どもも楽しそうよかった」といった声も聞かれ、終始賑やかな雰囲気でした。



「ふしみん国際交流カフェ」を開催！

多文化共生事業として、伏見青少年活動センターで12月から新しくスタートした「ふしみん国際交流カフェ」。お茶を飲みながら気軽に国際交流できる機会の提供を目指し、1ヵ月に2回のペースで行っています。中国やベトナム、日本の食文化の違いで盛り上がり、節分には日本独自の文化を紹介し、豆を食べたりしました。「他国のことを知ることができた」、「日本人と話せてよかった」という感想もありました。まずは知り合うこと、お互いを認め合うことから多文化共生につながっていきます。



しもせいチャレンジ☆キッズ

2月21日（土）～22日（日）、子ども23名、高校生から社会人のボランティアスタッフ17名で花背山の家まで「雪遊び」に行ってきました。1年間の最終プログラムということもあり、思い出と感動がいっぱい詰まった花背の1泊2日を楽しむことができました。スタッフは子どもたちとの関わりを大切にしながら、人と人とが関わり、いろんな経験をして共に成長していくことの大切さを感じています。



若者の「いま」を考えるサロン連続企画第2回

山科青少年活動センターでは、1月24日（土）、『難民高校生』の著者であり、女子高生サポートセンター Colabo 代表の仁藤夢乃さんをお招きし、「少女たちを排除する社会に立ちむかう」を実施しました。居場所の無さを感じながら、渋谷で過ごしていた高校時代の経験などを話し、夜の街をさまよう少女たちが「関係性の貧困」におかれている現状や「JKビジネス」拡大の現実について指摘されました。後半のグループディスカッションでは、「裏社会に負けないサポートとは？」をテーマに、参加者同士でアイデアを出し合いました。



ライブキッズイン新風館を開催しました！

3月8日（日）、中京区の新風館で行われ、ダンス27チーム、ミュージック8組が参加しました。京都市ユースサービス協会が主催し、出演者とボランティアスタッフが一体となって創るアマチュアのダンスとミュージックのフェスティバルで、今回は野外ライブとなりました。特にミュージック部門の野外ライブは初めてで、まだ小寒い中、熱いパフォーマンスを繰り広げ、場内の声援を浴びていました。



読者の声

毎号楽しみに読ませていただいております。現代の若者のリアルな声が聞け、積極的に活動している団体の状況がわかり、大学生に関わる仕事において大変役に立っております。

立命館大学サービスラーニングセンター 木村響子



7つの青少年活動センター

東山青少年活動センター

住所：〒605-0862 京都市東山区
清水5丁目130-6 東山区総合庁舎2階
TEL：075-541-0619
FAX：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

南青少年活動センター

住所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町72
TEL：075-671-0356
FAX：075-671-0360
URL：http://www.ys-kyoto.org/minami/

北青少年活動センター

住所：〒603-8165 京都市北区紫野
西御所田町56 北区総合庁舎西庁舎3階
TEL：075-451-6700
FAX：075-451-6702
URL：http://www.ys-kyoto.org/kita/

山科青少年活動センター

住所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻4丁野町42
TEL：075-593-4911
FAX：075-593-4916
URL：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

伏見青少年活動センター

住所：〒612-8062 京都市伏見区
鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎4階
TEL：075-611-4910
FAX：075-604-4910
URL：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

中京青少年活動センター

住所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町262
TEL：075-231-0640
FAX：075-231-1231
URL：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

下京青少年活動センター

住所：〒600-8202
京都市下京区川端町13
TEL：075-353-7750
FAX：075-353-7740
URL：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間 平日：午前10時～午後9時
日祝：午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始
(12/29～1/3)

発行 公益財団法人 京都市ユースサービス協会

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262 京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681 fax：075-231-1231 E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org

印刷：株式会社谷印刷所 デザイン：自然堂株式会社



Catch Your Dream

夢をかなえる学校がある!

— 普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得

選べる4つの登校スタイル

Schooling×Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
 - フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
 - 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
 - 夏冬集中受講制** 夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。
- ※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。

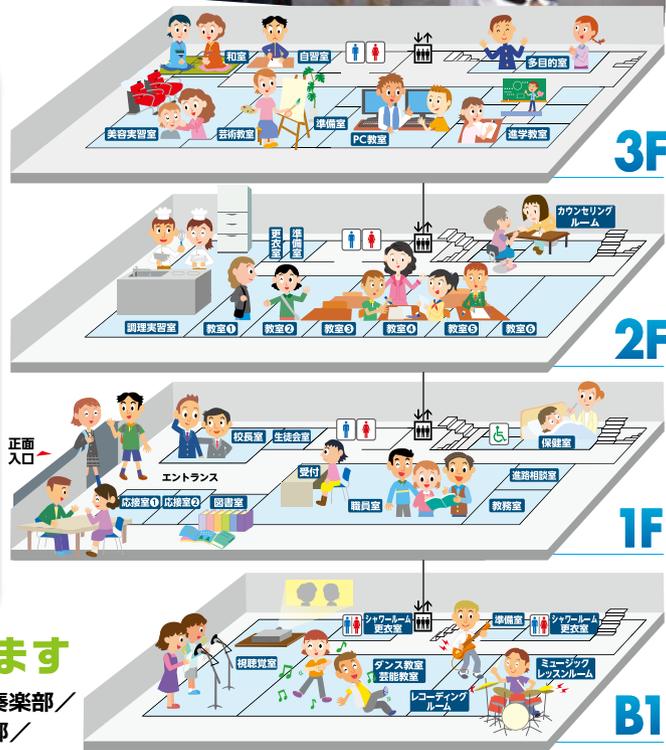


選べる16の専門コース

Special×Course

- 進学
 - 調理・製菓
 - 声優
 - IT
 - 理容師・美容師（国家資格取得）
 - 動物
 - スポーツ
 - 外国語
 - NEW ●心理・教育
 - ダンス
 - 美容
 - ミュージック
 - 芸術
 - 芸能
 - ファッション
 - NEW ●保育
- NEW...平成27年新規開講

※希望者のみ選択できます。※専門コースは毎年変更できます。
※卒業単位に20単位まで認定できます。



平成 25 年 4 月新校舎完成

盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部 / 料理部 / 写真部 / ASG部 / 演劇部 / 茶道部 / 吹奏楽部 / 軽音部 / 声劇部 / 手芸部 / 健康増進部 / Duel Masters部 / 天文部 / テニス部 / 卓球部 / バスケットボール部 / フットサル部 / 総合運動部

生徒会・保護者会・同窓会・いちの和会（後援会）が連携して、在校生の活動を支援しています。

私たちは青少年育成を
応援しています!

狭域通信制・単位制・普通科

京都つくば開成高等学校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> 京都つくば

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町406番
TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021

◆JR・地下鉄丸亀線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分

